

平成26年度市政懇談会会議録

開催日時：平成26年5月1日（木） 午後7時～午後8時

開催場所：境総合文化センター 小ホール

参加者：112人（男性107人、女性5人）

市側出席者：五十嵐市長、吉田副市長、徳江教育長

横澤総務部長、茂木企画部長、佐藤財政部長、細井市民部長、須賀環境部長、

多賀谷健康推進部長、福田福祉部長、金子経済部長、金井建設部長、

太田都市計画部長、岡部中心市街地整備部長、田島公営事業部長、要田水道局長、

吉田消防長、吉澤経営企画部長（市民病院）、大工原会計管理者、三友議会事務局長、

津久井監査委員事務局長、越須賀教育部長

- 1 開 会 司会進行（企画調整課長）
- 2 特別職の紹介・市職員（全部長職）の紹介
- 3 市長あいさつ

皆様こんばんは。市長の五十嵐でございます。本日は、夜分にもかかわらず、皆様には大変お疲れのところ、また、お忙しい中とは存じますが、平成26年度市政懇談会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

この市政懇談会は、年度当初のこの時期に市が取組む主な事業等を御報告させていただくとともに、市の取組みについて、または、市政全般について、皆様から御意見等を伺って、今後の市政運営に反映していこうという趣旨のもとで開催するものです。限られた時間ではありますが、スクリーンを活用して、御説明させていただきます。

なお、取組み内容の御説明に入る前に、皆様に御礼を申し上げたいと思います。先月、4月26日に、本市としましても長年の願いでありました境島村の田島弥平旧宅を含む富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録へ向けまして、イコモスからユネスコへ「登録すべき」という勧告がなされました。これによりまして、6月下旬には、ほぼ間違いなく世界遺産登録になると思っております。これまで長年にわたって、世界遺産登録に向けての活動に御尽力いただいた皆様の御努力に対しまして、心から敬意と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

4 重点政策の概容

- (1) 平成26年度重点政策について <市長説明>
- (2) 世界遺産登録について
- (3) 質疑応答 <特別職及び全部長職>

(7 : 39～)

◆行政区の統廃合について**【質問】**

本年度の予算について市長から事細かに説明いただきまして、大変よく分かりました。そこで、私の質問は、先ほどの説明では、直接触れてなかったのですが、行財政改革についてです。市の幹部の方は、御承知のことと思いますが、合併から10年が経ち、地方交付税の特例措置がなくなるということで、来年度から予算編成がかなり厳しくなるということが考えられます。そういったことを踏まえて、より一層の行政改革を進めていかなければならないということになると思います。

現在の伊勢崎市の行政区は、いわゆる合併前の行政区をそのまま引継いでいる状況です。今後、伊勢崎市も例外ではなく少子高齢化が進んでいくわけです。現在の行政区では、年々世帯数も減って、お年寄りが多く、子供が少ないという状況の中で、今までのように区長や地区役員を選考することは、非常に難しい状況になってくると思います。

それから、市からの補助金が削減されるというような話もあり、補助金が無い状況で、今までどおりやるには、地元の負担が必要となってきます。他の行政区の中には、区費の値上げを実施しているところもあると聞きます。

市では、平成22年度から合併の検証を行なっていると思いますが、たまたま、この境地区が、合併に対して一番一体感が薄いということが市民意識調査の結果で表れていました。そういったことも含めて、先般、新しい市議会議員も決まりましたが、このことについて議論していただいて、行政区をもう一度見直していただきたいと思っています。

特例市としての伊勢崎市を全国に胸を張って誇れるような市にさせていただきたいと思えます。

【回答】（市長）

御質問、また、御提言ありがとうございます。御指摘のとおり合併から10年が経ちまして、合併に伴う国の財政的な特例措置が徐々に薄れていく中で、これからの財政は、厳しくなることはあっても、豊かになることは大変厳しいだろうと思っています。

そういった中で、本市は、現在170の行政区があり、日頃から市政運営に大変御協力をいただいているところですが、今、御指摘いただきました内容については、各区長さんの御意向もありますので、今後、御相談させていただければと考えています。ただし、この行政区の見直しについては、市からご提案することは、非常に難しいのではないかと考えています。というのも、170行政区の全てに各々の特色やこれまでの歴史があります。したがって、見直しを行う場合には、地域の皆さんの御意見、御要望などを最優先するとともに、地元の皆さんの御意向を大切にしていってほしいと考えています。その中で、出来るだけ経費を削減できるような方法を模索していきたいと考えております。

◆防犯灯の設置について**【質問】**

本日は、市政懇談会を開催していただきましてありがとうございます。市民と意見交換ができる場を設けていただいたことは、五十嵐市長の方針である開かれた市政の実践であると受け止めています。

実は、質問ではなく、国道354号線の街路灯についての要望です。我々はネオンと呼んでおりますが、現在このネオンは、各町のサークルや商店会が設置し管理運営を行っており、現在その管理団体は8団体ほどあります。我々の団体は、上町商栄会ネオン会と称しネオンを15本管理しています。

商店街も昭和40年代、50年代が全盛の時代でした。当時、町内には商店が25店もあり、正月には初売り、春には桜まつり、夏には七夕まつりとか祇園祭りなど、いろいろなイベントを行って多くのお客さんで賑わっていた時代がありました。しかし、60年代に入り、町内の真ん中に大型スーパーが進出して、そちらにお客さんが流れてしまいまして、現在では、5店舗だけが営業を続けている状況で、御他間に漏れずシャッター通りになってしまっています。この5店舗で、今まで何とかネオンの維持管理を行ってきたのですが、電気料だけで年間約23万円も掛かっています。またそのほかに、電球が切れた時の交換費用等の負担があり、5店舗で維持管理していくには、非常に厳しい状況になっていました。そのため、一昨年、ついに電灯の灯を落とすことにしました。ところが、街灯が無くなると夜分などは思った以上に真っ暗になってしまい、足元が暗くて見渡せず、歩くにもおぼつかない状態になってしまいました。その後、何とかネオンを復活させたいと思っていたのですが、現状ではとても無理な状況です。

そこで、これは要望になりますが、ネオンとしてではなく防犯灯として、全部は無理としても1本でも点灯させたいと思っています。この間、LED防犯灯を設置していただきました。設置された通りは、かなり明るくなりました。このLED防犯灯を設置していただいて、国道354号線沿いが、以前のように明るくなるようにお願いします。なお、現在、国道354号線沿いには、防犯灯はありません。宜しくお願いします。

【回答】（総務部長）

防犯灯につきましては設置基準があり、それに則ってお住まいの地区の区長へ取りまとめをお願いしています。なお、防犯灯は、主に電柱に架設されている照明器具のことで、道路照明灯や商店街が管理する街路灯とは異なります。ということで、今の御要望については、防犯灯としての扱いということになりますと、市に申し入れをしていただければ、今年度の事業として設置の可能性があるということです。

ただし、現時点では、詳細な状況が分からない部分がありますので、現地調査等を実施させていただき、対応させていただくこととなりますので、よろしくをお願いします。

【質問】

ネオンを撤去して防犯灯を設置していただけるということでしょうか。

【回答】（市長）

まずは、現状を確認させていただいて、その後、御相談させていただくことになると思います。

その後の対応

現地を確認し、防犯灯の設置については、設置基準に則って電柱に設置することは可能であることと、商店街等が管理する街路灯については、市では管理できないので、所有者

の責任において管理（撤去等）していただくことになる旨、ご理解いただきました。

◆上矢島米岡線の整備について

【質問】

合併前に各市町村長が中心になり、新しい伊勢崎のまちづくりのための重点プロジェクトを作り、新しく伊勢崎市がスタートしたわけですが、そのプロジェクトの中には、外環状道路整備事業がありました。その関連で、都市計画道路上矢島米岡線が含まれていました。しかし、都市計画道路は、現在でも未施工のままとなっています。旧境町当時に建設着手についての説明会が数回ありましたが、合併後は説明会もなく、中断したままのよう、私を含めて、関連する住民は非常に戸惑っています。

先ほど市長の説明にもありましたが、この道路は、世界遺産として勧告があった絹産業遺産群の田島弥平宅に通じる道路としても利便性の高い道路であると思います。伊勢崎市として、都市計画道路上矢島米岡線を、今後どう位置づけ、整備していくのかをお伺いします。宜しくお願ひします。

【回答】（市長）

上矢島米岡線の関係でございますが、都市計画道路の関係になりますので、私も順次整備を進めるべきものと思っておりますが、現状については担当部長から御報告を申し上げます。

【回答】（都市計画部長）

上矢島米岡線につきましては、現在、上武道路の交差点からの国道354号までの区間が整備済みで、国道354号から南側の620メートルほどが未整備となっています。

なお、この地域では、東毛広域幹線道路の全線開通が本年9月に予定されていること、さらに、上武大橋の架替え工事が現在進行しているところです。

このような状況の中で、この地域の交通の流れも今後変わってくるものと予想しています。この都市計画道路の重要性は十分に認識しているところですが、この路線は、整備区間に住宅等が密集していることなどもあり、それなりに費用も掛かってきます。

今後、群馬県とも協調しながら、早期に着工ができるように調整を図ってまいりたいと考えています。

◆深谷市の道の駅との農業連携及び女性職員の幹部登用について

【質問】

伊勢崎市では、北部、南部、赤堀、東等の各地域において、人口が増加しており、とても嬉しいことであると思っております。

そこで、今回は、境地区関連の話をもつさせていただきます。

まず1点目は、深谷市の道の駅（おかべ）と境地区の農業の関係がどうなっているのかということ、もう1点は、市職員の幹部クラスへの女性の登用の状況についてです。

【回答】（市長）

御質問、ありがとうございます。深谷市の道の駅との関係は、担当部長からお答え申し上げます。

【回答】（経済部長）

境地区の農産物について、深谷市とどのような取引が行われているかということですが、市農政課ではそこまでの把握はしておりません。申し訳ございません。

【回答】（総務部長）

幹部職員への女性の登用については、課長以上の職に就いている女性の数でいいますと、現在、課長が2人、副部長が1人という状況です。以前に比べれば、少しずつではありますが確実に伸びている状況です。

◆地域コミュニティ活動事業補助金について

【質問】

重点政策の2番の地域経済の活性化の中で、地域活動支援として地域コミュニティ活動事業補助金の説明がありました。昨年度に30万円、今年度も30万円ということで、私の町内は、非常に戸数が少なく、80戸くらいしかないので、この30万円の補助金は、本当にありがたく使わせていただきました。

そこで、今後、この補助金が何年続くのかということです。それによって、今年はこれに使おう、また、来年は、これを買おう、といった計画が立てられます。現時点においての予定で結構ですから、わかりましたら教えていただきたい。

【回答】（市長）

大変有効に活用していただいたということで、本当にありがたく思っています。この補助金の来年度以降の実施についての御質問ですが、市は、単年度予算で動いているものですから、現時点で来年度予算のことを確約することは、非常に難しいことです。ただし、本年度、昨年同様に実施をさせていただきますので、この2年間の様子で、各町内の区長さんが工夫を凝らして有効に活用していただく中で、これはまだまだ必要な補助金であるという御要望が多ければ、10月から11月にかけての新年度予算編成の際に、継続するか判断をさせていただきたいと考えています。

この補助金については、御活用いただいた170行政区の区長の皆様から、非常に使い勝手がいい補助金だったというお褒めの言葉をいただいておりますので、2年連続で実施をさせていただきました。今後も、皆さんから御意見を伺いながら、対応させていただきたいと思っています。

◆空き家対策について

【質問】

現在、仲町区も先ほど質問された南町、上町の状況と同様に、深刻な少子高齢化が進んでいて、町内には小学生が3人しかいません。このような状況の中で、今、一番不安に思っていることは、空き家又は準空き家の問題です。町内に一人暮らしの高齢者が多くっており、その高齢者の方々が入院や施設などへ入所してしまうと、そのお宅は空き家状態になってしまっています。

2月の大雪によるカーポート被害の確認の時も住んでいるものと思って訪ねると、実際には施設へ入っていたようで、空き家同然となっていました。

そして、いくつかの空き家には、ハクビシンが住みついていたりして、町内では駆除も出来ず、非常に困惑しております。

また、血縁者を訪ねると、家屋を壊したいが、更地にすると固定資産税が6倍から8倍になってしまうなどの理由で、家を壊さず残しているといった話を聞きます。

固定資産税の関係は、制度的にそうなっているのかもしれませんが、このような町内が存在するという状況やシャッター通りも同様に、虫食いの空き家が増えていくことについて、何らかの対策が講じられないのかお聞きします。ごみ屋敷になる前に何とかしたいと思っているのですがいかがでしょうか。

【回答】（環境部長）

ただ今の空き家対策につきまして、現在、本市では、防犯面、防災面、または環境面において、問題が発生する場合には、市の火災予防条例やまちをきれいにする条例、さらには、県の犯罪防止推進条例等に基づいて対応しているところです。

空き家の雑草が生い茂ってどうしようもないとか、木の枝などが隣家にまで伸びて入り込んでしまって迷惑している、というような場合がありますが、管理は、あくまでも所有者となりますので、市では、所有者や所有者の相続人を調べて、連絡が取れば、その対応を依頼しているという状況です。

さらに、総務省の調査では、ここ10年間で、全国の空き家が182万戸から268万戸となり、86万戸も増加するという結果が出ています。これを受け現在、国では、空き家対策に関する法律の整備を検討している最中で、今国会で上程する予定と聞いております。その法律に基づいて、市でもしっかりと対応してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

◇市長あいさつ

本日は、大変お疲れのところを、夜分遅くまで御参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、最後の質疑応答では、貴重な御意見を伺うことができました。本当にありがとうございました。

これからも皆様と一緒に、元気で、豊かで、安全に過ごすことが出来る伊勢崎市を目指して頑張りたいと思いますので、引続き御指導のほど、宜しくお願ひ申し上げまして、御礼の挨拶とさせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。